

日本留学の感想

国立台湾大学
コウ イクケン

去年の九月末、少しの緊張と日本への憧れを胸に、東京にやって来ました。新しい環境や出来事が次々と押し寄せ、興奮や好奇心を抱く一方で、忙しさと不慣れさから、落ち込んだり疲れを感じたりすることも多くありました。

しかし、日本に来て約一か月が経った頃、私は留学の初心を改めて考えました。次第に、この留学の本当の意義は、その過程で自分自身を深く知ることにある、自分に最も合ったスタイルで生活することが何よりも大切だと気づきました。好きなことは存分に楽しみ、好きではないことは無理をして他人のペースに合わせる必要はないのです。時には、他の留學生のキラキラした生活を見て、自分は十分に「意味のある」日々を送れているのだろうかと思問することもありました。ただし、そのような比較自体が意味のないことだと理解するようになりました。そこで、私は意識を生活そのものに向けようになりました。プチ旅行を計画したり、自分のために料理を作ったり、部屋にこもって一日中アニメを見たりと、こうした平凡ながらも確かな日常の中に、幸せを見出すことができました。たまに落ち込むことがあっても、そうした時間は自分が今まさに「生活している」のだという実感を強めてくれました。これこそが、私の最大の収穫です。

授業では、西川朋美先生の「日本事情演習Ⅱ」が特に印象に残っています。お茶大附属小学校を訪問する機会が三回あり、日本の文化や教育環境を具体的に知ることができました。小学生たちに台湾の特色を紹介する中で、故郷の文化を世界に伝えることの喜びを感じました。また、お昼に子どもたちと一緒に給食を食べたことも、忘れられない思い出です。

さらに、日本は推し活に最適な環境で、ライブのチケット料金も比較的手頃です。四か月の間に、三回もライブを見に行きました。毎回終演後には幸せだと感じ、生活に向き合うエネルギーを得ました。日本に来た留學生には、この機会に推しのアイドルを応援することをおすすめします。

最後に、お茶大でお世話になった先生方、職員の方々、友人たち、そして快適な音羽館に感謝申し上げます。残りの半年も、後悔しないよう、引き続き留學生活を充実させ、さらに多くの場所を訪れ、新しいことに挑戦していきたいと思います。

